



# 農大二中進路通信

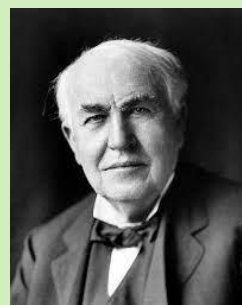
令和6年3月22日(金)  
第21号 農二進路指導部

## 一年間ご苦勞様、そして、スタートへの準備

最近生徒たちと話していて、ちょっとした違和感を感じることがあります。それは特に男子生徒です。「何かな」と考えていたら、四月当初に比べて、目線の高さが違うのです。この一年の間に大きく成長し、背が伸びました。10センチ以上伸びた生徒もいるのではないでしょうか？日々成長しているのは認識してはいますが、改めて中学生の一年の成長は著しかったのだと実感しています。もちろん、体だけじゃありませんね。心も大きく成長したのだと思います。慣れ親しんだ小学校を卒業し、周りにほぼ知らない生徒たち、緊張と不安、そして、期待が入り混じった中での入学式、そして、新しい生活が始まりました。小学校とは違う大量の課題と速い授業のペース、その中での部活動やたくさんの行事。おそらく、一学期は本当に大変だったことでしょう。しかし、そんな君たちもだんだん自分たちのペースがつかめ、生活も落ち着いてきて、今では余裕すらある人が出てきたくらいです。もしこれを一人でやれっと思ったらとても大変だったとは思いますが、周りに同じように苦しみながらも前を向き、一生懸命頑張る友達がいたからこそ、頑張れたのかなあと思います。本当に一年間ご苦勞様でした。また、それを支える家族の力がなければ今の君たちはありません。弁当の日では自分で弁当を作り、日々お弁当を作ってくれる家族のありがたみを感じたと思いますが、弁当だけではありません。常に君たちを応援しています。そんな親御さんたちへの感謝は勉強や部活を頑張ること、そして、楽しく学校に通っている笑顔で返してください。



農二中の一年目の船出はかなりいい感じだったかと思います。しかしながら、大海原に漕ぎだした船はいつ嵐がきて沈没するかわかりません。航海の歴史を作ったマゼラン、コロンブスなどは当然ながら水際での戦いや悪天候などで危うい状況もあったはずですが、しかしながら、自分たちの信念を貫き、航海を続け、偉業を成し遂げました。我々、農大二中も「開拓」と「創造」の精神を貫き、来年度もさまざまなことにチャレンジし、歴史を作っていきたいところです。こんな言葉があります。「絶対に失敗しない方法があります。それは新しいことにチャレンジしないことです。」と。しかし、そこには大きな成功もありません。これはあまりいい考えではありませんね。さらにエジソンが言いました。「失敗したわけではない。それを誤りだと言っただけではない。勉強したのだと言いたまえ。」(トーマス・エジソン)。成功するまで失敗を認めないことも一つ大切なことです。失敗は必要な勉強であり、大切なのは失敗した経験から何を学び、どう改善し、次に活かすかです。来年度も農大二中は挑戦し続けます。もしかしたら、自分たちが思っているような形にならないこともあるかもしれませんが、それは来年度以降の挑戦の種です。種は芽を出し、そして、花を咲かせることでしょう。一緒に、そして、誰一人欠けることなく、来年も頑張らしましょう！



# NI 探究 I 成果発表会の大活躍!

3月16日(土)に NI 探究成果発表会が行われ、当日は緑揚会の方々を始め、保護者のみなさまなど多くの参加があり、生徒たちもいきいきと楽しそうに発表をしていました。生徒たちの発表に対して、みな真剣に聞き入り、そして、意見交換をしながら、大変貴重な意見を頂きました。保護者の皆さんや緑揚会の方、そして、先生方からたくさんフィードバックシートにもコメントがもらえていましたね。本当にありがたいですね。今の段階では探究の企画の段階なので、かなり漠然とした内容だったり、論理的にも支離滅裂なところがあり、突っ込まれて困惑した部分もあったかもしれませんが、それが実はとても大切です。このタイミングで完璧なものなどありえませんが、いろいろもらったアドバイスにしっかりと耳を傾けながら来年に向けてさらなる探究を進めていってほしいと思います。

また、全体発表会では代表班の発表がありました。緊張した部分はあったかと思いますが、堂々と自分たちの発表ができたのではとっております。今回発表した7グループは来年度の6月に新一年生の前でもう一度発表してもらうことになります。1年生は君たちの発表を見て、来年の自分たちを思い浮かべることでしょう。頑張ってください。

そして、今回の発表会の裏方としてがんばってくれた生徒たちがいます。司会、タイムキーパーの生徒、また、放課後も残って、会場の設営してくれた生徒、そして、武揚ホールに掲げられた“NI 発表会成果発表会”の題字を書ってくれた生徒など、本当に陰で動いてくれた生徒のおかげです。本当にありがとう! こうした自主的に動く姿勢が本当の意味で学校を作っていくのだと思います。来年もまたお願いします。

NI 探究では暮らしの中で直面する問題や社会問題の解決に向けて、情報を収集、整理、分析し、周囲の人と意見交換、協働しながら、新しい技術やサービスの提案をしていきます。この活動の中で主体性、問題発見力、情報収集力、分析力、思考力、判断力、表現力を育み、さまざまな分野でイノベーションを起こし、新しい道を拓いていくグローバルリーダーを成長していってほしいと思います。いよいよ来年度は具体的な取り組みをしながら、その効果を検証していきます。いろいろと楽しみです。





# 明日の「果」は今日の「因」！

ふと毎日の新聞を見ていて思うことがあります。今見ている新聞はいつ誰が作ったのでしょうか？みなさんご存じのように日刊紙は基本的に明日の新聞は、今日、作っています。今日、今のこの瞬間に作らなければ、みなさんに明日、新聞は届くことはありません。つまり、明日の「果」は今日の「因」によって決まるということです。

Z 会の結果が返ってきました。結果はどうだったでしょうか？今回出た「結果」はこれまでの「原因」によって出てきた「結果」です。一日一日の積み重ね、もっといえば一年の積み重ねが結果として出たものです。特に英語に関しては顕著です。数学や国語は、もしかしたら入学前の習熟度もかなり影響を受けたかもしれませんが、英語は必ずしもそうではありません。英語に関しては小学生時代にたくさんやってきた人もいますでしょう。ただ、今回の Z 会の英語で上位にいる人たちの中には中学生から本格的に始めた人もたくさんいます。そうした生徒の日々の学習の姿勢を振り返ってみると、とにかく毎日すべきことをしっかり着実にやり、地道に力をつけてきました。逆に今回英語ができなく落ち込んだという人は自分の胸に聞いてください。落ち込むほど、毎日毎日、勝負をかけてきましたか？日々の提出物を出してきましたか？レッスンテストで絶対合格しようと KEYPOINT を必死で覚えようとしてきましたか？もし、勝負をかけてきて、できなかったならば、方法がまちがっていたのかもしれませんが。勝負をかけていなかったならば、その姿勢を改めるべきかと思います。

思い起こせば、一学期にフォローアップの常連だった人たちがいます。慣れない英語の授業でスペルと音の不一致に悩み、全然書けず、覚えられず、、、とても落ち込んでいました。それもそのはず、入学時はこれまでの貯金(勉強)がある人がスイスイできる感じを出していたからです。でも、そのように悩む生徒たちにずっとと言ってきました。「最初だけです」と。英語という全く言語形態の違う言語を学ぶとき、最初から簡単なわけがありません。ただ、「慣れれば大丈夫です」と。「授業をしっかり受けて、家庭学習で NT 文法問題集を使って習った文法事項を復習すること。そして、KEYPOINT の音読をやり、日本語を見て英語を口から出せるようにし、英語で書く練習をしていけば必ずできるようになる」と。一学期、苦戦した生徒も、夏休み中に復習し、その遅れを取り戻しました。そして、2学期辺りから英語に慣れ、授業にもしっかりついていけるようになり、英語がみるみるできるようになりました。こうした生徒たちは今回の Z 会でも全国平均をしっかり超えてきました。これは本当に素晴らしいことです。負けなかった生徒です。あきらめなかった生徒です。しかし、問題なのは途中で歩みを止めてしまった生徒ややるべきことをしなかった生徒です。農大二中にいるから勉強ができるようになるのではありません。努力するからできるようになるのです。それを忘れないでほしいと思います。

また、地道に努力する生徒は、わかるからと言って何も勉強しない帰国子女や小学生時代英語をたくさん勉強してきたからわかると言ってあぐらをかいている生徒たちよりも、数年後には必ずできるようになり、テストでも高い点数がとれるようになります。つまり、なあなあに数年英語に触れてきた生徒よりも真剣な学習をしてきた生徒の方が伸びるということです。だから、アドバンテージがある生徒はその努力する生徒と同じくらい努力をしてください。そうすれば、まず抜かされることはありません。素晴らしいことに農大二中にいるそうした生徒は抜かされないようにとプライドをもって学習に向かっています。来年も引き続き頑張ってください！

最後に一言です。我々は誰一人置いていこうとは思っていません。どんなにできなくても最後まで面倒を見るつもりです。ただ、自らの意志で置いていかれようとするならば話は別です。学習しようとする意欲を見せることは必要ですよ。未来の「結果」を作るために、現在の「原因」を作っていこう。4月に学力推移調査がありますのでしっかりと準備をしていきましょうね。

# 数学特別授業に生徒たち大興奮

3月8日(金)に数学特別授業「多角形の平面に砂をかけ続けるとどうなるか」を実施しました。普段は机上で学んでいる数学ですが、今回は砂を使いながら、体験的に数学を学びました。授業では多角形に切った厚紙に砂をかけ続けるとどのような立体になるかを推測し、実験することで考察しました。砂は厚紙の端に向かって落ちていくので、多角形の角を二等分するように尾根が形成されます。班に分かれ、まずは三角形で実験した後、次はそれぞれが自由に切って作った多角形で、独自の実験と考察を楽しんでいました。この授業で1学期に幾何の授業で学んだ「作図」や「三角形の特徴」について、実感が持てたようでした。また、今回はクラス合同でしかも他クラスの生徒たちとの活動でしたので、普段とは違う雰囲気の中で協力して、活動が行えたようでした。以下は生徒たちの授業を終えた後の感想です。



- ・ 今日の1、2時間目の数学特別授業がとても楽しかったです。実際に、色々な図形に砂をかけることで尾根のでき方やその共通点がとても分かりやすく理解も早くできました。また、「角の二等分線の特徴」などを使って共通点を探したことから全ての勉強はつながっていることもわかりました。
- ・ 数学の特別授業で多角形に砂をかけると尾根ができるということがわかりました。尾根になる原理もしっかりと説明していただき、なおかつ実践を通してそれが理解できたため、楽しく学ぶことができました！これからもこのような特別授業があると嬉しいです！
- ・ 今回の数学特別授業で、普段は字面や図でしか考えることのできなかつた事柄を実際に目でみて学ぶことができました。また、観察したことからどのようなことが分かるかを考察するのも楽しかったです。
- ・ 砂を使うことと数学に何の関係があるのかと思っていましたが、図形の仮定に注目したり形からどのような投影図になるかを予想することが、とてもワクワクして分かった時の喜びが大きかったです。また、他クラスとも関わり話し合いながら取り組むことによって、より具体的な結論を導き出すことができました。
- ・ 最初は、「ただ山なりになるだけだろう」と思っていたのですが、台形や平行四辺形などの他の形でも試すことで、前に幾何の授業で学んだ「垂直二等分線」や「対角線」などに関わりがあることが分かり、とても面白かったです。





# 学年レクで大はしゃぎ

3月12日(火)の午前中、中等部は学年レクを行いました。競技はもちろん、運営もすべて生徒会によって行われました。ケイドロ、氷鬼、ドッチボールなどさまざまなレクを行いましたが、「これまで生きてきた中で一番動いた!」「とても疲れたけど、楽しかった!」などの感想がありました。実際に走り、投げ、声を出し、みんなが大はしゃぎでした。もちろん、机上で学習できる事柄ももちろん大切ですが、こうした活動を通して、自主性、協調性を養うことは自分たちの成長にとって大切なことですし、将来何かを企画して実際に行う上で創造性も必要なことです。レクリエーションですが、勝負にこだわりすぎた部分もあり、中断する場面もありましたが、みなさんの勝負にける意気込みや執着を感じる瞬間でした。負けじ魂は時として必要なことです。いずれにしも生徒みんなで楽しめたことが何よりですし、気分転換やストレス解消になったかことが一番良かったかと思います。来年も多くの行事がありますが、一つ一つの活動を楽しんでいきましょう。



# 漢字テストで個と集団の力を伸ばしたい

毎週週の初めの国語の時間に漢字テスト(全 34 回)を行ってきました。範囲は漢字のワーク2ページ分、1問4点で25問、100点満点のテストです。全34回の平均点の最高は98.7点でした。皆さんには「100点を取れ!」、「クラスの平均点を100点にしよう!」と常に言ってきました。

漢字テストの目的は漢字を覚え、語彙を増やし、読解に生かすのは勿論ですが、それだけではありません。定期テストや模試では100点を取るのはなかなか難しいことです。ですが、やはりいつでも100点を狙いそのために勉強してほしいと思っています。いつも自分の力を最大限に出す努力をしてほしいのです。そういう自分を漢字テストから作り出してほしいと思っています。100点を取るためには2ページの範囲を確実にしなければなりません。漢字テストをすることでケアレスミスをする自分を卒業し、細かいところにも気付き注意する力を身に付け、小さいところから完璧にしていくことを積み重ねていってください。さらにクラス平均100点を目指すことで、意識の高い集団になることも期待しています。これは漢字テストだけでなく、他の教科のミニテストでも同じだと思います。因みに今年度のクラス平均の最高は96.8点でした。今年度最後のテストのように取り組みば、クラス平均100も達成できそうです。来年度も漢字テストを行います。来年度こそ、クラス平均100点、いや学年平均100点を取ってくれることを期待しています。



## Z会アドバンスの評価

先日 Z 会の結果が返ってきましたが、評価の基準がよくわからないという声があったので若干の説明をしたいと思います。そもそも、Z 会の模試は全国の中高一貫生、さらには将来的に難関大学を目指す中学生が受験する模試で、大変内容的には難しくなっています。当然のことながら、その中で偏差値50を取ることは至難の業であります。一般に言われているのが、この模試の中1、中2で偏差値50を超えていると全国的にも高いレベルとされており、55を超えていると旧帝国大学、東工、一橋が狙えるレベル、そして、超最難関と言われている東大、京都、医学部レベルは65(中3だと62)だと言われています。自分が将来希望するレベルに現段階で届いていなくても焦らず、一つずつ階段を着実に上がっていきましょう。

また、今回から学内順位を出しました。これまではあえて学内の順位を出してきませんでしたが、それはいくら学内でいい順位をとったからといって、習熟度が低ければその順位そのものが意味をなさないと考えていたからです。また順位を出すことで一喜一憂し、本質的な学習の習熟という点においておろそかになると考えていました。今回の数学で偏差値50以上の人数は全体の上位数十パーセントにすぎませんでした。したがって、偏差値が40代であっても農二中全体の順位では低くならない可能性があります。しかし、我々としたら学内の順位が悪くないからといって安心してもらうては困るわけです。たとえ農二の上位にいたとしても全国では通用しないならば意味がありません。それでも学内の順位にこだわりますか？他の誰かよりも良いといって、優越感に浸りますか？また、反対に英語では学内順位がたとえ半分から下にいたとしても、全国的にみれば平均より上であるということを理解してもらえたと思います。たとえ、学内の順位が下位でも全国的に上位なら何の問題もありません。学内の順位はあくまでも目安であって、我々が最もフォーカスするのは「どれだけできるようになったか」「どれだけ全国で戦えるか」です。教科ごとに平均点は違いますが、約半分をとれていたなら、偏差値50くらいになっていたと思います。50をとれて満足できますか？英語の全国平均は49.6でしたが、よくよく考えてみるとテストの半分しかできていなかったということです。全国から見ると悪くなかったからといって安心してもらうては困ります。半分しか取れなかったことが問題だということを知ってほしいと思います。また、これまで数学のペースが速い、課題が多いと苦しんだ生徒、また、全然わからないと嘆く生徒がいました。みなさんは今回の結果を見て、農大二中の数学のペースを落とすべきだと思いますか？課題を減らすべきだと思いますか？我々が戦っているのは学内という小さな枠の中ではありません。5年後、君たちが自分の本当にやりたいことを選択できるように、力をつけてあげたい、全国の猛者たちと戦えるようになってほしいと考えています。そのために先生方は必死になって教えてくれています。やる気さえなくさなければ、いくらでも面倒見ますから、必死についてきてください！頑張ろう！

## 4月当初行事予定

4月6日(土)	令和6年度 始業式
4月7日(日)	令和6年度 入学式
4月8日(月)	振り替え休日
4月9日(火)	対面式、各種健検診、身体測定
4月10日(水)	学力推移調査
4月12日(木)	みらい PASS ジュニア、写真撮影
4月13日(金)	自宅学習日